

車のバッテリー活用 住民に無償提供

大規模災害に伴う停電時に、自動車のバッテリーから電力を地域住民に無償提供する公開実験が6日、自動車販売のタックス宮城野（仙台市宮城野区）であった。非常時の「給電拠点」として、人工呼吸器など医療機器の電源や携帯電話の充電への活用が期待される。

医療従事者や地域住民ら約30人が参加。トラックや乗用車のバッテリーをケーブルでインバーター（電力変換器）につなぎ、電球3個とヒーターを付けた。600ワット程度を問題なく給電できることを実証した。

実験は、給電拠点網の拡充を進めるバッテリーコンサル会社のイーコース（東京）が主催。

災害時の給電拠点



車のバッテリーから電力を供給できることを確認した実験

菊竹玉記社長は「電気自動車やハイブリッド車でなくても給電はできる。多くの企業と共助の輪を広げたい」と話した。宮城県内では他に運輸・倉庫業者3社が協力。タックス宮城野の参加で給電拠点は県内8カ所となった。

娘が難病で人工呼吸器となん吸引器を使う太白区の主婦高橋実和子さん（50）は、実験を見て「停電は生命に直結するので常に不安。頼れる場所があるのはありがたい」と語った。

タックス宮城野の伊藤一樹取締役経営企画部長は「車を扱う当社が社会貢献できると思いつ入した。いざというときは声をかけてほしい」と呼びかけた。